

平成 20 年 4 月 10 日
パリ産業情報センター
駐在員 社本 朗

一般調査報告書

第 143 回 BIE(国際博覧会事務局)総会が開催

平成 20 年 3 月 31 日、パリ市ポルト・マイヨにあるパレ・デ・コングレで、加盟 151 カ国の政府代表が出席して第 143 回 BIE 総会が開催された。

今回の総会では、予算委員会、執行委員会、規則委員会、広報委員会といった BIE の 4 委員会からの報告の後、2008 年 6 月 15 日から 9 月 15 日に開催されるサラゴサ国際博覧会(スペイン)、2010 年開催予定の上海国際博覧会(中国)、2012 年麗水(ヨス)国際博覧会(韓国)の開催準備状況、2015 年の国際博覧会立候補地の決定投票が行われた。

<2008 年サラゴサ国際博覧会(スペイン)の進捗状況>

2008 年サラゴサ国際博覧会には、現在 104 カ国と 2 つの国際機関が正式に参加を表明している。地域的には、ヨーロッパ 27 カ国、アジア 23 カ国、北米南米 12 カ国、中米カリブ 20 カ国、アフリカ 22 カ国となっている。国際機関としては、国際連合と欧州連合が参加を決定している。

「水と持続可能な開発(Water and Sustainable Development)」をテーマとするサラゴサ国際博覧会の会場建設の現況は順調であり、主な建物ではウォータータワー 96.1%、水族館 89.6%、ブリッジパビリオン 63.8%といった状況である。

この博覧会の開催に際して河岸の緑化整備を行い、人口一人当たりの緑地面積がスペインで 2 番目に多い都市になったことが報告された。

博覧会会場へのアクセスとしてはサラゴサ空港ターミナルを新しくし、年間 200 万人の利用者を迎えらるるよう整えたのを始め、スペイン新幹線、バスや道路ネットワークの整備も行った。

新しいアクセス手段としては、サラゴサ中央駅からのロープウェイ、サラゴサ市中央を流れるエプロ川を利用した河川アクセス、自転車を使ったアクセスである。

現在、10,000 人のボランティアのトレーニングが終了し、施設面だけでなく受け入れサービス面での準備も着々と進んでいる。

国際博覧会の認知度としては、スペイン国内での調査によると 87%の国民が博覧会を知っており、そのうち 70%が良いイメージを持っているという結果が出ている。

約 3 か月の会期中、6,500 千人の入場者を目指し、現在 2,800 千枚のチケットは旅行会社等を通じて売られて入場は確実の状況であり、さらに旅行会社や広報活動などを通じて販売枚数を増やしていく予定である。

サラゴサ国際博覧会オフィシャルホームページ

<http://www.zaragozaexpo2008.es/>

(英語、仏語、西語:ただし日本語のパンフレットのダウンロード可)

<2010年上海国際博覧会(中国)の進捗状況>

2010年上海国際博覧会には、現在171カ国と31の国際機関が公式に参加を決定している。地域別にはヨーロッパ41か国、アジア43か国、オセアニア15か国、アフリカ49か国、南北アメリカ23か国となっている。

「より良い都市、より良い生活(Better City, Better Life)」をテーマとする上海国際博覧会に向けて、今回、110の国及び国際機関が入ることになる8つの共同パビリオン建設の計画などが披露された。

国際博覧会の会場の80%の整備が終了し、都市最適化エリア(Urban Best Practices Area)、エキスポ大通り(Expo Boulevard)、エキスポセンター(Expo Center)、中国パビリオン、アートパフォーマンスセンター、メトロ等交通機関も建設準備を始めている。

万博のマスコットを使って、テレビやラジオでPRを行うとともに、BBCなどのマスコミを始め60機関の訪問を受けつけ、万博会場等を案内し広報活動を行っている。

2008年の北京オリンピックでのPR、サラゴサ万博での上海フォーラムの開催などを通じてさらにPRをしていく予定である。

上海国際博覧会オフィシャルホームページ

<http://jp.expo2010china.com/> (日本語ほか)

<2012年麗水国際博覧会(韓国)の進捗状況>

2015年麗水(ヨス)国際博覧会のテーマは「生きている海洋と海岸線(The Living Ocean and Coast)」である。昨年11月の142回のBIE総会で開催が決定した。

2012年5月12日～8月12日の約3か月間の開催を予定している。

現在の準備状況としては、2008年1月に国内で開催準備オフィスが開設され、2008年4月に国際博覧会開催委員会が正式に組織される予定である。また同時期に韓国政府の首相がトップとなる国際博覧会サポート委員会も設立される予定となっている。

麗水国際博覧会オフィシャルホームページ

<http://www.expo2012.or.kr/eng/index.asp> (韓国語、英語、仏語、西語、アラビア語)

<2015年国際博覧会開催地はミラノ(イタリア)に決定>

2015年の国際博覧会開催地には、トルコのイズミール市、イタリアのミラノ市が立候補していた。

今回のBIE総会前には会場外でのPR、BIE総会中は最後のプレゼンテーション機会

が与えられ、それぞれ趣向を凝らしたPR活動が行われたが、投票の結果、ミラノ市 86 票、イズミール市 65 票となり、ミラノ市が開催地と決定した。

イタリアのミラノ市のテーマは、「地球の糧と命のエネルギー(Feeding the planet and energy for life)」で、会場地は全体で 171 万㎡を考えている。

ミラノ国際博覧会オフィシャルホームページ

<http://www.milanoexpo-2015.com/> (伊語、英語、仏語、西語、独語)

<万博開催都市・地域連盟(AVE)総会とシンポジウム>

BIE 広報委員会からの報告の中で、今年のサラゴサ国際博覧会の期間中の 9 月 12 日に過去の国際博覧会開催都市、地域で構成される「万博開催都市・地域連盟(AVE)」(現在愛知県知事が議長)の総会とシンポジウムが開催されることが発表された。

サラゴサ市民始め一般にも公開して開催される「シンポジウム」はサラゴサ大学の講堂で行われ、テーマは「21 世紀の持続可能な都市のための国際博覧会(Expos for the Sustainable City of the XXI Century)」である。

なお、次回の BIE 総会は 2008 年 12 月 2 日にパリにて開催される予定である。



BIE 総会の様子



2015 年国際博覧会ミラノに決定時の様子